

古墳・壁画等の複製品を用いた展示活用について

1. 目的

国宝高松塚古墳壁画は石室石材とともに仮設修理施設に保管されており、修理後には保存管理と公開のための新施設におさめられる予定である。しかし実物の壁画は脆弱であり、展示公開の手法や期間には制約が生じる。そのため、来館者が高松塚古墳の壁画の全体像や石室内空間を理解しやすくするために、複製品を用いた展示を併用することが有効と考えられる。高松塚古墳の新施設における展示を考える上での参考資料とすべく、古墳・壁画を主として絵画等も含めた複製による展示公開と活用の事例収集を行った。

2. 複製品の事例

高松塚古墳壁画の複製としては、壁画面だけの複製、個々の壁画と石室石材の複製、石室として組まれた状態の複製などが考えられる。素材も陶板、樹脂、模写など、多様なものが候補になりうるであろう。

以下に調査事例のなかから参考となりそうな複製の一部をあげる。



①国営飛鳥歴史公園 四神の館 キトラ古墳石室模型・壁画陶板レプリカ
石室内空間を立体的に把握できる。再現性・耐久性に優れる。



②飛鳥資料館 キトラ古墳壁画 陶板レプリカ
壁画面を展開し、壁画鑑賞に向く。天文図の解説も投影している。



③高松塚壁画館 現状模写
壁画鑑賞に向く。



④高松塚壁画館 壁画再現模造模写
石材と漆喰の関係を示す。



⑤高松塚壁画館 高松塚古墳石室 樹脂レプリカ
盗掘穴からのぞく。中に入ることにはできない。



⑥関西大学 高松塚古墳 陶板レプリカ
石室外面や床を省略している。





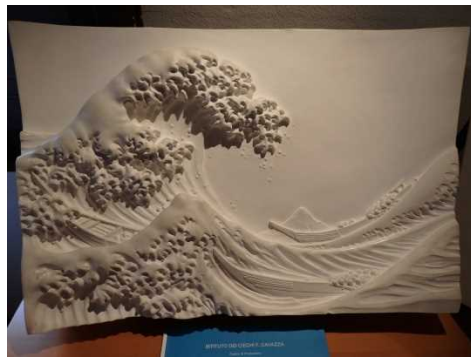
⑦飛鳥資料館 高松塚古墳石室
実物大模型
解体作業と石室をあわせて紹介。
中に入れる。



⑧韓国国立中央博物館 江西大墓壁画模写
個々の壁画を鑑賞できるが、石室空間は
わからない。



⑨イタリア アンテロス美術館
絵画の浮き彫り模型を用いた視覚障害者向け美術館。
触覚による絵画鑑賞を導く専門スタッフとプログラム、体制の整備が必要。
他館でもタッチャブルツアーを実施。



3. まとめ

複製の種類や展示活用方法は多岐にわたることがわかった。一石ごとに平置で保管しなければならない高松塚古墳の壁画に関しても、実物の代わりとしての高精度な壁画の複製をはじめ、伝えたい情報などに応じてさまざまな複製の可能性が考えられよう。